

■■■ 第9陣第三国定住ミャンマー難民支援の入口に立って ■■■

2018年9月に来日し、2019年3月中旬から神戸で生活することになる第9陣第三国定住ミャンマー難民支援に、難民事業本部関西支部と一緒に取り組むことになりました。

マレーシアで生活するミャンマー少数民族の難民の方の中から、日本での生活を希望され、自立した生活を送れるであろうと想定された比較的若く、子どものいる世帯を日本政府が選び、今年度は5家族22名が来日されることになりました。来日してから3月までは、東京で日本語や日本での生活について学ばれています。

現在は神戸での受け入れがスムーズに行えるよう、地域の方への説明会を行ったり、できるだけ楽に生活がスタートできるよう生活物資を募ったり、保育園、学校、行政機関などと調整をしたりしています。

日本でインドシナ難民の受け入れが始まってから既に30年以上が経ちますが、受け入れ時の問題点がほとんど見直されないまま、受け入れが続けられています。東京の寮を出た後の生活に必要な費用として支度金が準備されていますが、敷金や家賃、家電製品や家財道具の購入費用、4月の給料が入るまでの約2ヶ月の生活費、子どもの学校の教材や体操服などにかかる費用が十分に賄える金額ではありません。東京滞在中に食費として支給されている一日1,500円を貯めるように言われているほどです。住宅の保証人も準備されず、まだ神戸在住ではないことから公営住宅の申し込みもできず、住宅の確保も非常に困難でした。

自立してもらおうという視点から、東京での数か月の学習を終えた後も日本語の学習を継続できる仕組みが必要だと感じますが、小さい子どもがいる家庭、夫婦がほぼフルタイムの共働きでやっと生活できるような収入であるため、学習する時間的余裕もありません。

日本の難民受け入れ数の少なさが国際的に批判されていることもあり、来年度以降、難民の受け入れを増やす動きもあるようですが、まず受け入れ制度の見直しが必要だと感じ、第三国定住に関する有識者会議に構成員として参加されている方への働きかけを行ったりもしています。

第8陣までは関東圏以外に三重県や広島県でも受け入れがされていますが、ミャンマー人のコミュニティがある関東圏へ既に移住された方もいらっしゃるようです。神戸にもミャンマー人のコミュニティはなく、神戸で長く定住されるかどうかわかりません。せめて神戸にいらっしゃる間は健やかに安心して暮らせるように、関係機関と協力しながら、自立に向けた支援を行っていきたいと思っていますが、支援の入り口に立った今、その難しさを痛感しています。(志岐 良子)

◆物資提供、ありがとうございました！

ミャンマー難民のための物資募集をしました。新聞2社に掲載され、またFacebookの情報をシェアしていただいたりしたおかげで、学校で生徒さんたちが収集してくださったり、個人の方が郵送や持参してくださいました。おかげさまで非常にたくさんの食器やタオル、子ども用品、すぐ必要になるトイレトーパーなどの消耗品をご提供いただきました。3月2日(土)にボランティアの方にご協力いただき、家族構成を考えつつ、振り分けました。また、各家庭の方に新品の食器棚やカーテン、お米などを購入してくださいました方もいらっしゃいます。

このたくさんの善意により、難民の方たちがきっと多くの方たちから温かく迎えられていることを感じてくださるのではないかと思います。ご支援いただいたみなさま、誠にありがとうございました。

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆3年間にわたるにほんご漢字プロジェクトが終わりました

地域の日本語教室では「書く」ことをどう考えたらいいのでしょうか？書くことは必要じゃない？書写のようにきれいに書く必要はない？例えば、漢字は希望がない限り学習しなかったのではないのでしょうか。私が学習申込に携わってきて、入門レベルの方は「日常会話ができるように」と言われますが、会話ができ何年か後に「漢字学習」を目的に再び申込に来られます。漢字を学習していないとニュースなどで使われる熟語のような言葉は知らないままです。日本で生活していくのであれば、漢字もある程度わかった方がいいでしょう。

この3年間、漢字学習カフェ、「生活漢字」出前講座、クラスごとの取組と支援者の協力を得て、

漢字学習をすることを精力的に進めてきました。その試行錯誤で、漢字学習の支援について積上げたポイントをまとめてみます。よければ参考にしてください。他にもいいアイデアや方法があればぜひ教えて頂ければ嬉しいです。

第1ポイント：「漢字学習はする」…子どもが漢字を嫌いだからと言って勉強しなくてもいいという親はいないですね。これから日本で生活していく人に対しても優しく諭していただきたいです。ひらがな、カタカナの学習が終われば続けて漢字も学習するものだとルールに乗せていただければスムーズに漢字学習の習慣がつかます。

第2ポイント：「筆画（ストローク）を押さえる」…漢字は線と点の組み合わせでできています。始めに「左から右」「上から下」などの筆運びと「まっすぐ」「カーブ」「とめ」「はね」「はらい」の線の種類を押さえましょう。この時、筆ペンがお勧めです。目新しい筆記用具だと楽しく喜んで書いてくれます。同時に一画で書く筆画も押さえておきましょう。画数を数えられると、初めて見る漢字も辞書で調べることができるし、メモなど手書きの漢字を読むのにも役立ちます。

第3ポイント：「意味を押さえる」…漢字は表意文字ですから意味を確認しておきましょう。韓国、ベトナムは元々漢字文化圏です。そのセンスは利用したいものです。非漢字文化圏でも大まかな意味を理解してもらおうのがいいでしょう。

第4ポイント：「語彙を増やす」…一つの漢字でも読み方が多いことが大変だとよく言われます。漢字の形と音読み訓読みを機械的に覚えるのはひと苦労です。知っていることばを漢字になおす、その漢字を使って新しい語彙を紹介する、語彙を増やすことを目的に漢字学習をするのはいかがでしょうか。言葉の数が増えるのは楽しいものです。

第5ポイント：「パーツ（部首／まとまり）を見つける」…画数の多い複雑な漢字も、カタカナや簡単な漢字の組み合わせだと伝え、楽しみながら数を増やしていきましょう。学習者本人にパーツ分けをしてもらおうと、1回の学習で覚える確率が上がります。3年間で「筆運びで学ぶ楽しい漢字帳（基礎漢字148）」、「筆運びで学ぶたのしい漢字練習帳（基礎漢字148）」、「生活漢字」、「漢字は、くみあわせでおぼえましょう！（ステップ漢字167）」、「絵日記ふう漢字学習帳（ステップ漢字167）」、「生活漢字Ⅱ」を作成しました。

漢字帳作成グループに入って協力して下さった方々、支援者の方々の多大なご協力のお陰で、ボランティアによる地域日本語教室での漢字学習について指針を得ることができました。来年度からも、このノウハウを活かして取り組んでいきたいと思えます。さあ、楽しんで漢字の学習を進めていきましょう。謝謝！（奥 優伽子）

■■■ K F C 外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

◆ K F C のボランティアを振り返って

私は大学生になってから学習支援に携わるようになりました。最初は恩返しと好奇心が半々でしたが、関わるうちに私が高校進学時に苦労したときの記憶が蘇り、子どもたちの気持ちに共感できるようになりました。

4年間を振り返ってみると、日々の学習支援に留まらず、その延長にある色々なことにトライすることができました。一年目は子どもたちとの接し方や距離感を模索していましたが、二年目にインターンとしてトヨタ財団が助成するプロジェクト（日韓移民ユースエンパワメントのためのディーセントワーク推進プロジェクト）に参加し、国内のみならず韓国の活動家とも出会い、視野を広げることができました。三年目はほかのインターンと共に新たな取り組みにチャレンジし、多くの学びや気づきを得ました。四年目はそれまで積み上げた問題意識をもとに、「外国にルーツを持つ子どもの高校進学の問題」というテーマで卒業論文を執筆しました。

4年間支援に携わってきて、継続することで生まれるものは「心地の良い居場所」だと気づきました。支援は長く続けば続くほど、効果が出るものだと言われています。それは支援者と子どもがお互いの居場所を築き、心と言葉のキャッチボールが上手くできるようになり、支援がより深層的なものへシフトしていくからだと思います。

私は、4月から就職するので、3月をもって7年間お世話になったKFCから離れます。最後になりましたが、このような貴重な機会をくださったKFCの皆様、KFCを通して私に関わってくださったすべての皆様に心から感謝を申し上げます。

(学習支援コーディネーター 司徒 嗣)

■■■ ハナの会 ■■■

◆100歳誕生会と節分

デイサービスで100歳を迎えるご利用者様がお二人います。まず2月5日生まれのL様、中国の方です。昨年11月からデイを利用されています。2月9日にデイサービスでいつもより盛大に行いました。壁飾りと風船100個を用意し、ケーキではなくお餅でお祝いしました。昼食は、すき焼きを用意してくれたので、皆で美味しく頂きました。バースデーカードもいつもより大きくして何枚も貼って、ご本人に渡し、おおいに喜んでもらいました。ご家族からお礼の電話も頂きました。100歳の区切りにお祝いができて嬉しかったです。来年も誕生会ができることを願います。そして、7月にはH様が誕生会を控えています。節分は季節を分けるという意味があり、もう立春です。今年も昼食は巻き寿司で、スタッフのフフさん扮する鬼が現われました。「鬼は外、福は内」とみんなで鬼払いをしました。全員が健康な一年間をすごせるようにお祈りしました。(竹宮 章子)

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆2年間を振り返って

私が医療相談をするようになって2年が経ちました。最初は、言葉が通じないということにとまどいました。しかし、スタッフ、帰国者の方々に温かく迎えてもらい、言葉は通じなくても、交流はできるのだということが分かり、緊張しなくなりました。しかし、相談にのる立場で来ているのですから、やはり中国語を勉強する必要性は感じています。

帰国者の方々は、体の基盤(基本)がしっかりしていて、元気に集いに参加しておられるので、励まされます。踊りを練習して色んな催しやイベントに参加される姿は若々しさを感じます。

先日、春節祭の集いで水餃子作りをされて、私も食事会に呼んで頂き嬉しかったです。小麦粉から作られた水餃子の皮がモチモチしていて、大変美味しく、本場の味を堪能しました。食事の合間に帰国者の方々が歌や二胡などの演奏を披露され、素敵でした。私も一曲歌い温かい拍手をいただき楽しいひとときを過ごすことができました。

(訪問看護ステーションはれ 看護師 難波 博愛)

■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ ■■■

◆今年もやってきた春節祭

2月6日は、餃子を作って旧正月をお祝いする日です。例年より参加する利用者が少なく無事にできるか不安でしたが、いざ始めるとそのパワーに圧倒されっぱなしでした。粉から皮を作り具も全て手作り。この日、中心となった利用者は3名。三者三様の作り方で言い合うように作業しているため口論しているのかとヒヤヒヤしましたが、連係プレーで次々と出来上がっていきました。中国では、お正月に家族が集まり、餃子を作ってお祝いするそうで、各々の家庭の味や形があるようです。作り方も、微妙に異なりますが、そこは阿吽の呼吸、何百個もの餃子が出来上がりました。

私は、その様子を眺めながら、昨年、旧正月を一人施設で過ごさざるをえない中国人利用者が、泣きながら「寂しい」と話をしていたのを思い出しました。家族は中国へ帰国し、仕事も忙しくて会いに来てもらえませんでした。懐かしい旧正月の様子を聞かせてくれましたが、お年寄りから子どもまでみんなで餃子を作っている姿が目浮かぶようで、その利用者にとって、本当に楽しい思い出だったろうなと感じました。

今年は、自宅と施設の往復でしたが、昨年より家族を身近に感じられたようで、他の利用者が作った餃子を「美味しい」と召し上がっておられました。

私自身、家族や親戚が集まって楽しかったと思出すのは、お正月前の餅つきです。祖父母と同居していたため、祖父母が健在な頃は親戚がみんな集い、大人たちが杵とうすを使ってお餅をつき、子どもたちは、お餅を丸めたりして、楽しかったことを覚えています。

文化は異なっても、家族のぬくもりを感じる思い出はどこか似通っているのでしょうか。ハナでは、そんな人と人のつながりを感じられる場面が沢山あるような気がしますし、それがとても魅力的だと思います。これからも、利用者さんや職員たちを大切にしながら時間を過ごしていきたいと思えます。

(施設長 森 佳緒里)

■■■ 今後の予定 ■■■

- ◆今後の予定
- 日本語プロジェクト
3月24日(日)10-12時 日曜クラス交流会
- KFC帰国者新長田交流会
5月19日(日) 神戸まつり パレード参加(予定)
- KFCハナの会
4月上旬 お花見
- グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ
3月28(木)、29(金)、31日(日) お花見